

## 1. 化学品及び会社情報

製品名 : タキボンド#607  
会社 : タキロンシーアイ株式会社  
住所 : 〒671-2421  
兵庫県姫路市安富町長野 405  
担当部門 : 安富工場 技術グループ  
電話(緊急連絡先) : 0790-66-2285  
ファックス : 0790-66-2378  
作成日 : 2001年4月1日  
改訂日 : 2022年5月20日

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

	<夏用>	<冬用>
物理化学的危険性		
引火性液体	: 区分2	区分2
健康に対する有害性		
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2	区分2
発がん性	: 区分1	区分1
生殖毒性	: —	区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分1(呼吸器系) 区分3(気道刺激性、 麻酔作用)	区分1(呼吸器系) 区分3(気道刺激性、 麻酔作用)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分1(呼吸器系、腎臓) —	区分1(呼吸器系、腎臓) 区分2(血液)
環境に対する有害性		
水生環境有害性 短期(急性)	: 区分3	区分3
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分3	区分3

記載がないものは区分に該当しない、もしくは分類できない

## GHSラベル要素

## 絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

	<夏用>	<冬用>
危険有害性情報	: 引火性の高い液体及び蒸気 強い眼刺激 発がんのおそれ	引火性の高い液体及び蒸気 強い眼刺激 発がんのおそれ 生殖能又は胎児への悪影響の おそれの疑い

呼吸器系の障害	呼吸器系の障害
呼吸器への刺激のおそれ	呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ	眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害	長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害
	長期にわたる、又は反復ばく露による血液の障害のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に有害	長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

- 安全対策
- : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
  - 床材の接着用途以外には使用しないこと。
  - 容器を密閉し、開封した接着剤は、速やかに使い切ること。
  - 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
  - 有機溶剤作業主任者立会いのもとで使用すること。
  - 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
  - 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
  - 火花を発生させない工具を使用すること。
  - 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
  - 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
  - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
  - 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
  - 取扱い後はよく手を洗うこと。
  - 環境への放出を避けること。

応急処置

- 火災の場合 : 安全第一で、適切な消火剤を使用し消火すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合 : 医師の診断、手当てを受けること。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪いとき : 医師の診断、手当てを受けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診断、手当てを受けること。
- 漏出した場合 : 乾いた砂やウエス等により、拭き取り回収すること。
- 保管 : 容器を密閉して直射日光の当たらない5～35℃で、換気の良い場所で、施錠して保管すること。  
法令で定められた限度内で、場所を決めて保管すること。
- 廃棄 : 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物  
化学名又は一般名 : ウレタン樹脂系接着剤  
成分及び含有率

成分	含有率		CAS 番号	官報公示整理番号 化審法	PRTR 法	安衛法
	夏用	冬用				
ウレタンプレポリマー	20-30%	20-30%	—	—	非該当	非該当
トリレンジイソシアネート(TDI)	1%未満	1%未満	26471-62-5	3-2214	非該当	通知
無機充填剤	15-25%	15-25%	—	—	非該当	非該当
結晶質シリカ(石英)	10-20%	15-25%	14808-60-7	1-548	非該当	表示
酢酸エチル	30-40%	15-25%	141-78-6	2-726	非該当	表示
アセトン	—	5-15%	67-64-1	2-542	非該当	表示
スズ化合物	—	1%未満	—	—	非該当	通知
添加剤	5%未満	1%未満	—	—	非該当	非該当

含有率は参考値

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させこと。呼吸に関する症状が出た場合は、医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 粉末ドライケミカル、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧

使ってはならない消火剤 : 棒状水

消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。

消火をする者の保護 : 保護衣を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立入りを禁止する。

保護具及び緊急時措置 : 作業の際は、保護具を着用する。

- 環境に対する注意事項 : 多量の場合には流路を盛土などで囲って、流出を防止する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、紙や布で拭き取り焼却する。多量の場合は、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取る。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源を取り除き、消火器材を準備する。漏出量の多少に関わらず、漏出液を下水、河川、海洋等に排出させてはならない。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 当製品を取り扱うときは保護眼鏡、ゴム手袋、換気が不十分な場合は有機ガス用防毒マスク、防塵マスク(上材の剥し、けれん作業時)を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 火気厳禁。
- 接触回避 : 水等の活性水素化合物と反応する為、それらとの接触は避ける。

### 保管

- 安全な保管条件 : 容器を密閉し直射日光の当たらない5～35℃で、換気の良い場所で、施錠して保管する。

その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めるところに従う。

## 8. ばく露防止及び保護措置

	TDI	結晶質シリカ	酢酸エチル	アセトン(冬用)	スズ化合物(冬用)
管理濃度 (労働省告示第79号)	0.005ppm	下記参照※)	200ppm	500ppm	未設定
許容濃度 (日本産業衛生学会: 2019年)	0.005ppm (0.035mg/m <sup>3</sup> )	0.03mg/m <sup>3</sup>	200ppm (720mg/m <sup>3</sup> )	200ppm (470mg/m <sup>3</sup> )	未設定
許容濃度 (ACGIH)	(2014年) 0.005ppm(TWA) 0.02ppm(STEL)	(2015年) 0.025mg/m <sup>3</sup>	(2012年) 400ppm (TWA)	(2012年) 500ppm(TWA) 750ppm(STEL)	(2004年) 0.1mg/m <sup>3</sup> (TWA): Snとして 0.2mg/m <sup>3</sup> (STEL): Snとして

※)E=3.0/(1.19Q+1)[mg/m<sup>3</sup>] (E:管理濃度、Q:遊離けい酸含有率(%))

- 設備対策 : 蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの換気のための装置を設置する。

### 保護具

- 呼吸用保護具 : 換気が不十分な場合、有機ガス用防毒マスク、防塵マスク(上材の剥し、けれん作業時)を着用する。
- 手の保護具 : 状況に応じ、PE、ゴム製等の不浸透性の手袋を着用する。
- 眼、顔面の保護具 : 状況に応じ、側板付又はゴーグル型保護眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 状況に応じ、不浸透性の長袖作業衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 粘稠液
色	: 灰褐色
臭い	: 特徴的な臭気
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 77.1°C (酢酸エチル:夏用) 56.1°C (アセトン:冬用)
可燃性	: データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	: 下限0.9% 上限9.5% (TDI) 下限2.2% 上限11.5% (酢酸エチル) 下限2.6% 上限12.8% (アセトン:冬用)
引火点	: -4°C (密閉) (酢酸エチル:夏用) -20°C (密閉) (アセトン:冬用)
自然発火点	: 427°C (酢酸エチル)
分解温度	: データなし
pH	: データなし
粘度	: 14,000~20,000mPa・s (25°C) (夏用) 13,000~19,000mPa・s (25°C) (冬用)
蒸気圧	: 0.0033kPa (25°C) (TDI) 10kPa (20°C) (酢酸エチル) 24.6kPa (20°C) (アセトン:冬用)
密度及び/又は相対密度	: 1.20~1.40 (23°C)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
その他のデータ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性・化学的安定性	: 通常の取扱い条件下においては安定。
危険有害反応可能性	: 湿気、加熱により反応して高分子化し、増粘、ゲル化を起こす。
避けるべき条件	: 高温、火炎、スパーク及び着火源。
混触危険物質	: 混合物としての知見なし。
危険有害な分解生成物	: 混合物としての知見なし。

## 11. 有害性情報

急性毒性(50%致死量等を含む)

	TDI	結晶質シリカ	酢酸エチル	アセトン(冬用)	スズ化合物(冬用)
LD <sub>50</sub> (経口)ラット	5,840mg/kg	—	4,940mg/kg	>5,000mg/kg	>6,000mg/kg
LD <sub>50</sub> (経皮)ウサギ	>9,400mg/kg	—	>18,000mg/kg	>5,000mg/kg	—

LC <sub>50</sub> (吸入)ラット	>0.47mg/L (1hr)	—	19,600ppm (4hr) (蒸気)	75.8mg/L (32,000ppm)	—
--------------------------	--------------------	---	-------------------------	-------------------------	---

- 皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 混合物としての知見なし。
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギ4匹を用い試験物質原液0.1mLを点眼したDraize試験において、角膜混濁は2日目までに回復(4/4)、虹彩炎は2日までに回復(1/4)、結膜の発赤・浮腫・分泌物などは7日までに消失(4/4)し、24、48、72時間のMMAS(最大平均スコア)15.0との報告(ECETOC TR48(1998))があった。  
なお、EU分類では、Xi、R36に分類されている。(酢酸エチル)  
  
蒸気は人の眼を刺激する。しかしばく露が止まると刺激性は続かない。ウサギではsevereという結果が報告されている。角膜上皮は破壊されるが、基質まで至らず、角膜上皮の破壊は4~6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではない。(アセトン:冬用)
- 呼吸器感作性 : 混合物としての知見なし。
- 皮膚感作性 : 混合物としての知見なし。
- 生殖細胞変異原性 : 混合物としての知見なし。
- 発がん性 : IARC68(1997)は1、NTPはK、産衛学会勧告は1に分類している。(結晶質シリカ)
- 生殖毒性 : ラットの高濃度ばく露(11000ppm(20mg/L))でわずかな発生毒性(胎児体重減)が、マウスの高濃度ばく露(6600ppm(15.6mg/L))で胎児体重減、後期胚吸収発生率増が報告されている。(アセトン:冬用)
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 反復ばく露に比べるとデータが大幅に少ないが、ヒトにおいて短期ばく露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記述がある。IARCはPriority1文書である。(結晶質シリカ)  
ヒトで400ppmを4時間ばく露により鼻腔、咽喉と眼に軽度の刺激が報告されている[DFGOTvol.12(1999、ACGIH(2001))。また、ネコ、マウスで吸入ばく露、ウサギでは経口ばく露により、それぞれLD50またはLC50以下の用量で麻酔作用が記述されており、一過性であるとの記述がある(ACGIH(2001)、IUCLID(2000))。(酢酸エチル)
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : Priority1文書に、ヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼすとの記述がある。(結晶質シリカ)  
ボランティアによる試験で500ppm、6時間/日、6日のばく露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貧食作用の有意な減少が観察されている。ラット、マウスの試験でもガイダンス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた。(アセトン:冬用)
- 誤えん有害性 : 混合物としての知見なし。

12. 環境影響情報

- 生態毒性 : 知見なし
- 残留性・分解性 : 知見なし
- 生体蓄積性 : 知見なし
- 土壌中の移動性 : 知見なし
- オゾン層への有害性 : 知見なし

### 13. 廃棄上の注意

廃油と廃プラスチック類の混合物に相当し、処理は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

廃棄の際は危険性情報の反応性をふまえて処理を行うこと。

### 14. 輸送上の注意

「取扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、化学物質に関する一般的注意による。

国連番号 : 1133  
品名(国連輸送名) : 接着剤  
国連分類 : 3(引火性液体類)  
容器等級 : II

### 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 表示対象物質(第五十七条 施工令第十八条)  
… 該当(結晶質シリカ、酢酸エチル、アセトン:冬用)  
通知対象物質(第五十七条の二 施工令第十八条の二)  
… 該当(TDI、結晶質シリカ、酢酸エチル、アセトン:冬用、スズ化合物:冬用)  
有機溶剤中毒予防規則  
… 第2種有機溶剤(酢酸エチル、アセトン:冬用)

化学物質管理促進法(PRTR法) : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 危険物第2類引火性固体(危険等級III)

建築基準法(2003年7月より) : 使用制限なし

### 16. その他の情報(記載内容の問い合わせ先、引用文献等)

当製品は、アスベスト及び厚生労働省の指定する化学物質(13物質)を含んでおりません。

ホルムアルデヒド放散量に関する表示(JIS A 5536) : F☆☆☆☆

4VOC放散速度基準: 日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-506903 4VOC基準適合

尚、当製品は、JIS A 5536(床仕上げ材用接着剤)製品認証を受けております。

[認証番号 GB0607078]

参考資料 : 化学物質管理促進法対象物質全データ(化学工業日報社)  
各社使用化学品の「安全データシート」  
GHS分類結果データベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構)  
GHSモデルSDS情報(安全衛生情報センター)

・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成していますが、危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。  
・取扱いに際しましてはご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。